

受験  
番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2022 年度

# 第 10 回 会社決算書アナリスト試験

## 問題用紙

( 試験時間 1 時間 30 分 )

### —受験者への注意事項—

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙は開かないでください。
2. 解答は、定められたところに、誤字・脱字のないよう、ていねいに記入してください。
3. 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンを使用してください。
4. 受験番号は、右寄せで記入してください。受験番号を記入していない場合は、採点の対象とならない場合があります。

### 数値計算上の注意

1. 各指標について、数値は、算出結果のみを解答すること（計算式は不要）。
2. 答は、小数点が出ない場合には、そのまま答え、小数点が出た場合には、最終数値の小数点第 2 位を四捨五入し、第 1 位まで解答すること。例えば、9.45% の場合は、「9.5%」、10.34 回の場合は「10.3 回」と解答すること。
3. マイナスの場合には、数値の前に「△」をつけること。例えば、マイナス 9.5% の場合には、「△9.5%」と解答すること。損失の場合も同じく、△を付け、利益の場合にはつけない。

## 第1問

次の1. から10. の文章について、正しいものには「○」、誤っているものには「×」を解答欄に記入しなさい。

1. 当該企業が成長（躍進）、成熟（安定）、衰退のいずれの段階にあるかを見る場合の方法として、趨勢分析と一時点での企業間比較分析を比較したとき、企業間比較分析の方が趨勢分析よりも適している。
2. 企業が、異業種へ転換するために不要となった旧事業の工場を売却し得られた利益は、損益計算書の特別損益の部を見れば分かる。
3. 一般に、有形固定資産の部の項目には、この企業の業種が推理できる項目が含まれている。
4. 損益計算書で、税引前当期純利益から控除される法人税等の支払額は、キャッシュ・フロー計算書では、財務活動によるキャッシュ・フローの部に計上される。
5. 当期の新株発行による増資額は、株主資本等変動計算書に計上される。
6. 下請け企業の売上債権対仕入債務比率が、通常の比率を示している前期の比率と較べて悪化つまり低下し、それが仕入債務の増加によるとき、それだけ下請け企業が元請け企業から資金的援助を受けた場合と同じ効果があると考えられる。
7. コンビニエンスストアにおいて、アルバイト店員の待遇改善のため、時給を高めると、粗利すなわち売上高売上総利益率が低下つまり悪化する。
8. 当期純利益キャッシュ・フロー比率を見れば、当期純利益の配当にまわせる資金的裏付けを確認できる。
9. 総資産負債比率が高まると、純資産負債比率は低下する。
10. 安定配当政策（1株当たり配当金を一定額に固定する政策）を採っている企業が将来、利益拡大が見込める新規事業へ投資しその資金調達のために借入れをし、その利息負担が増加すると、この投資をしない場合と較べ、当期の配当性向は低下する。なお、期中に株数に変更はなかった。また、この投資以外の企業活動は同じとする。

## 第2問

就職活動を間近に控え、小売業を志望先に選んだAさんとBさんは、近所にあるベビー子供服を小売しているX社の決算書を入手し、分析を行うことにした。その決算書の数値(概略)が<資料1><資料2>である(前々期の<資料>は掲載していない)。下のAさんとBさんの会話について、問1と2に答えなさい。

問1 <資料1><資料2>により、①から⑥の数値を計算しなさい。解答にあたっては、表紙に示した「**数値計算上の注意!**」に従うこと。

問2 ( ) aからdに入る適切な語の記号(ア、イ、ウ)を記入しなさい。

Aさん 「会社の収益力を見ると言えば、最初に、総資産当期純利益率(ROA)を見る必要があるね。これを計算すると、前期は約1.0%、当期は約(①)%になるね。前期と較べて当期はすごく良くなっているね。」

Bさん 「次に、それが、効率的な企業経営によるか、それとも利益率の上昇によるか、どちらの原因が大きいのかを見なければならぬわね。総資産回転率は、前期が約1.4回、当期が約(②)回、総収益当期純利益率は、前期が約0.8%、当期が約(③)%になるわ。」

Aさん 「損益計算書の実数を見ても、明らかに伸びているのはa(ア. 営業 イ. 経常)利益だね。だから、この活動を分析してみようよ。」

Bさん 「じゃ、売上高売上原価率と売上高販売費及び一般管理費率を計算してみましょうよ。売上高売上原価率は、前期が約65.2%、当期が約(④)%、売上高販売費及び一般管理費率は、前期が約33.5%、当期が約(⑤)%になるわ。ということは、b(ア. 売上原価 イ. 販売費及び一般管理費)の低下の方が利益の増進に貢献していることになるわね。」

Aさん 「これについては、前に回転率も見たので、念のため棚卸資産回転率も見てみようか。前期が約5.3回、当期が約(⑥)回だから、やはり、利益の増進にはこれまでの分析から、効率ではなく、bに関わる比率の低下が貢献していると言えるね。」

Bさん 「ところで、近頃、政府は新しい資本主義とか言って、企業に給料を上げさせようとしているけれど、あくまで、これまでのa活動の分析からだけの話だけど、この企業はこの政策にc(ア. 対応している イ. 対応していない)と言えそうね。もちろん実際には、有価証券報告書などで詳しく確認しないと出来ないことは分かっているわ。ここでの話は、あくまで分析指標の次元での話よ。」

Aさん 「確かに指標の次元で判断する限りでは、そうは言えるよね。次の期の指標を見てみないと何とも言えないけれど、このような分析指標の流れつまりは経営の姿勢が続くのなら、就職先としては、どうかな。ただ、これもあくまで当期まででの話だけどね。」「労働者としては、次期にはbに関わる指標がd(ア. 良くなる イ. 変わらない ウ. 悪くなる)ことを願うのみだね。」

<資料1>

損益計算書

(単位：百万円)

	前年度 (自×2年1月1日 至×2年12月31日)	当年度 (自×3年1月1日 至×3年12月31日)
売上高	142,954	159,418
売上原価	<u>93,178</u>	<u>100,879</u>
売上総利益	49,776	58,539
販売費及び一般管理費	<u>47,867</u>	<u>46,444</u>
営業利益	1,908	12,094
営業外収益	462	360
営業外費用	<u>21</u>	<u>81</u>
経常利益	2,349	12,374
特別利益	105	188
特別損失	<u>351</u>	<u>215</u>
税引前当期純利益	2,102	12,347
法人税、住民税及び事業税	<u>1,025</u>	<u>4,070</u>
当期純利益	<u>1,077</u>	<u>8,276</u>

[注] 金額は元の数値を百万円にしているので、計算書の計算は一致していない。

<資料2>

貸借対照表

(単位：百万円)

前年度 (×2年12月31日)

当年度 (×3年12月31日)

流動資産		
現金及び預金	41,360	55,655
売掛金	3,398	3,245
棚卸資産	28,448	26,351
その他	<u>2,541</u>	<u>2,558</u>
流動資産合計	<u>75,747</u>	<u>87,809</u>
固定資産		
有形固定資産	10,398	11,007
無形固定資産	1,027	1,217
投資その他の資産	<u>17,256</u>	<u>17,410</u>
固定資産合計	<u>28,681</u>	<u>29,634</u>
資産合計	<u>104,428</u>	<u>117,443</u>
負債		
流動負債	40,315	46,321
固定負債	<u>3,354</u>	<u>3,479</u>
負債合計	<u>43,669</u>	<u>49,800</u>
純資産		
株主資本		
資本金	2,523	2,523
資本剰余金	2,406	2,575
利益剰余金	62,427	69,337
自己株式	<u>△7,334</u>	<u>△7,528</u>
株主資本合計	60,022	66,907
評価換算差額等	381	580
新株予約権	<u>356</u>	<u>156</u>
純資産合計	<u>60,759</u>	<u>67,643</u>
負債純資産合計	<u>104,428</u>	<u>117,443</u>

[注] 金額は元の数値を百万円にしているので、表の計算は一致していない。

### 第3問

資料は、空運業を営むQ社の貸借対照表とキャッシュ・フロー計算書（概略）である。この資料、＜資料1＞と＜資料2＞により、次の問1から3に答えなさい。

問1 Q社の前年度末（×1年度末）および当年度末（2年度末）における①総資産負債比率、②流動比率（銀行家比率）、③固定長期適合率を、また、Q社の前年度（×1年度）および当年度（2年度）における④フリー・キャッシュ・フローを計算しなさい。解答にあたっては、表紙に示した「数値計算上の注意!」に従うこと。

問2 問1の計算結果を受け、この企業の安全性を分析した次の文章のaからdに入る適切な語の記号（ア、イ、ウ）を記入しなさい。

Q社の将来にわたる資産流出の危険性に焦点をあてた長期的・構造的安全性に関する分析指標を見ると、前期から当期にかけてa（ア. 良くなっている イ. 変わらない ウ. 悪くなっている）。また、短期の支払い能力に関する指標に関して、前期と比べ当期はb（ア. 良くなっている イ. 変わらない ウ. 悪くなっている）ことがわかる。

続いて、視点を変え、長期的な活動を行うために必要な設備等を購入する上での資金調達の安全性（安定性）が確保されているかを分析すると、前期から当期にかけて指標はc（ア. 良くなっている イ. 変わらない ウ. 悪くなっている）。最後に、資金繰り、具体的には負債の返済に向けられた資金額の変化は前年度に比べ当年度はd（ア. 良くなっている イ. 変わらない ウ. 悪くなっている）。

問3 <資料1><資料2>および問1、問2を踏まえ、Q社についての考察を行った次の文章のxとyに入る適切な語の記号（ア、イ、ウ）を記入しなさい。

コロナ禍の影響を受け、Q社は苦しい営業活動を強いられていると考えられる。具体的に、営業活動によるキャッシュ・フローの数値は前期・当期ともにマイナスとなっており、当期の貸借対照表の貸方とくに株式資本の部の利益剰余金の数値からも、企業が苦境にあることがわかる。

こうした状況の下、Q社はまず×1年度に外部から多額の資金を調達することで、活動資金の確保を行った。このことは、×1年度におけるx（ア. 営業活動によるキャッシュ・フロー イ. 投資活動によるキャッシュ・フロー ウ. 財務活動によるキャッシュ・フロー）の数値から読み取ることができる。

続いて、×2年度においては、事業を縮小させ、経営存続のための資金を捻出していると推察できる。これを本業を支える有形固定資産の動きが表しており、この行動は、×2年度のキャッシュ・フロー計算書におけるy（ア. 営業活動によるキャッシュ・フロー イ. 投資活動によるキャッシュ・フロー ウ. 財務活動によるキャッシュ・フロー）の数値にも現れている。また、返済資金を確保しようとしている姿勢が、計算した×2年度のフリー・キャッシュ・フローの数値にもあらわれている。

以上の施策により、問1で計算した諸比率に、極端に大きな変動は見られず、安全性に決定的なダメージを与えていなかったものと推理できる。すなわち、企業の苦境に対し、安全性を確保し乗り切ろうとする経営者の決断が、貸借対照表情報を超えて、キャッシュ・フロー計算書情報から読み取ることができる。

<資料1>

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (×1年3月31日)	当連結会計年度 (×2年3月31日)	前連結会計年度 (×1年3月31日)	当連結会計年度 (×2年3月31日)
資産の部			負債の部	
流動資産			流動負債	
現金及び預金	464,700	453,200	営業未払金	191,500
受取手形及び営業未収入金	104,000	148,000	短期借入金	130,000
リース債権及びリース投資資産	19,000	17,600	1年内返済予定の長期借入金	70,000
有価証券	500,100	498,000	1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	-
商品	11,600	9,200	リース債務	3,500
貯蔵品	27,000	35,000	未払法人税等	10,700
その他	98,900	132,000	発売未決済	45,000
貸倒引当金	△ 200	△ 300	契約負債	-
流動資産合計	1,225,100	1,292,700	賞与引当金	4,800
固定資産			その他の引当金	12,700
有形固定資産			その他	53,600
建物及び構築物(純額)	116,000	102,000	流動負債合計	521,800
航空機(純額)	1,026,000	980,000	固定負債	
機械装置及び運搬具(純額)	33,200	30,000	社債	165,000
工具、器具及び備品(純額)	19,000	15,500	転換社債型新株予約権付社債	140,000
土地	49,000	44,000	長期借入金	1,168,200
リース資産(純額)	4,800	4,200	リース債務	9,100
建設仮勘定	200,000	175,000	繰延税金負債	200
有形固定資産合計	1,448,000	1,350,700	退職給付に係る負債	700
無形固定資産			その他の引当金	160,800
のれん	22,300	20,200	資産除去債務	1,100
その他	87,800	73,500	その他	31,300
無形固定資産合計	110,100	93,700	固定負債合計	1,676,400
投資その他の資産			負債合計	2,198,200
投資有価証券	159,000	140,000	純資産の部	
長期貸付金	6,000	6,800	株主資本	
繰延税金資産	220,000	273,000	資本金	467,000
退職給付に係る資産	700	1,000	資本剰余金	407,000
その他	39,500	60,200	利益剰余金	145,000
貸倒引当金	△ 2,200	△ 3,000	自己株式	△ 60,000
投資その他の資産合計	423,000	478,000	株主資本合計	959,000
固定資産合計	1,981,100	1,922,400	その他の包括利益累計額	
繰延資産合計	2,000	1,600	その他有価証券評価差額金	38,000
資産合計	3,208,200	3,216,700	繰延ヘッジ損益	21,600
			為替換算調整勘定	2,600
			退職給付に係る調整累計額	△ 16,200
			その他の包括利益累計額合計	46,000
			非支配株主持分	5,000
			純資産合計	1,010,000
			負債純資産合計	3,208,200
				3,216,700

<資料2>

キャッシュ・フロー計算書(概略)

(単位：百万円)

	×1年度	×2年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 270,441	△ 76,413
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 595,759	230,019
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,098,172	93,646
現金及び現金同等物の増減高	234,621	250,878
現金及び現金同等物の期首残高	135,937	370,322
現金及び現金同等物の期末残高	370,322	621,037

#### 第4問

同好会で知り合った経済学部の人Sさんと教育学部で教員を目指しているTさんの次の会話について、<資料>に基づき、問1と2に答えなさい。

問1 aからfの( )の中に入る適切な語を記入しなさい。

問2 ( )中の①から④の数値を計算しなさい。解答にあたっては、表紙に示した「数値計算上の注意!」に従うこと。

Sさん 「アベノミクスのせいで国家財政は大幅な赤字になったうえに、さらに最近は、コロナ対策とか言って色んな財政出動がなされているね。このような財政運営では、我々若い世代の将来に良い展望がない気がするよ。身近なところでは、年金が不安だよ。」

Tさん 「そういえば、教育の面でも金融教育の必要性が議論され、一部の教科ではこれが導入されることになったよ。」「政府が新しい資本主義とか言って、投資を推奨しているのはそういうことなのかな。」「投資と言えば、まず思いつくのが株式投資だよ。S君は経済学部じゃなかった?色々教えてよ。とにかく現在の日本銀行の政策の下では、働いて得た私たちの大切な元手であるお金を銀行に預けてもわずかな利子しか得られないものね。」

Sさん 「たまたま、ここに<資料>があるよ。これを使って考えてみようよ。」

#### <資料>

	U社	
	期首	期末
資産合計	1,933,000 百万円	2,125,000 百万円
負債合計	1,434,000 百万円	1,458,000 百万円
純資産合計	499,000 百万円	667,000 百万円
	当期	
当期純利益	139,000 百万円	
剰余金の配当額	33,000 百万円	
	株価と株式の情報	
期末株価 (終値)	3,000 円	
期末発行済株式総数	200,000 千株	

Sさん 「ではまず、株式投資の目的から確認してみるね。」「最初に、投資をする元手を英語でキャピタル (capital)、元手から生みだされる成果つまり利益を英語でインカム (income) というんだよ。また、投資の元手つまり株式を売っても、購入した価額と売却した価額の差から売却益が得られることになるね。これらそれぞれの利益を英語でゲイン (gain)、まとめてリターン (return) ということも頭に置いておいてくれる。」

Tさん 「この言葉はなんとなく経済学を少しかじったので、知ってるよ。」

Sさん 「株式投資の目的は投資を通じてリターンを得ることにあるんだ。このリターンには、元手が生み出すゲイン、つまり配当である ( a )・ゲインと、元手を売ったときに得られる売却益である ( b )・ゲインとがあるんだよ。」「まず、銀行預金の利息と較べるには、( a )・ゲインを測定する指標である ( c )を計算してみる必要があるよ。<資料>により計算すると、( ① )%になるね。」

Tさん 「え!銀行の利率と較べて、ものすごくいいね。」

Sさん 「ここで、配当の元は企業利益だから、企業が利益のうちどれだけを株主に還元したかの指標 ( d )も見ておく必要があるよ。これにより、企業がどの位、株主のことを考えているかが分かるからね。儲けても配当に回してくれなければ、株を持っていても意味がないからね。」



- T さん 「そうだね、計算してみる！（ ② ）%だね。」  
「もう一つのリターンである（ **b** ）・ゲインを得るには株を買わなきゃいけないね。」
- S さん 「そうだね。なるべく安い株価の時に買って、高い株価の時に売った方がいいよね。この場合、二つの指標が使われるんだ。一つは、決算書の数値を使い、会計上の評価に対して株価を評価し何倍かを見る（ **e** ）（PBR）という指標と、現在の利益水準で今の株価を何年で回収できるか、つまり株価は利益の何倍かを見る（ **f** ）（PER）という指標が使われるんだよ。これも計算してみて！」
- T さん 「（ **e** ）は（ ③ ）倍、（ **f** ）は（ ④ ）倍になるね。」
- S さん 「（ **e** ）も（ **f** ）も高いと“割高”と言われるので、U社はむしろ割安で、買い時かな？もちろん、株式市場全体を見ないと簡単には言えないけどね。」

